



株式会社 カの源ホールディングス 【証券コード: 3561】



2019年5月10日

# 2019年3月期 決算補足説明資料

## ■ 2019年3月期 決算報告

- 連結損益計算書
- 決算ハイライト（セグメント売上高）
- 決算ハイライト（セグメント利益）
- 既存店売上高前年比推移
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー計算書
- 出店の状況
- 店舗数の状況
- 主な実施事項

## ■ 2020年3月期（今期）業績予想

- 連結損益計算書
- セグメント売上高
- セグメント利益
- 出店計画

## ■ 付属資料

- 会社の概要

# 2019年3月期 決算報告



中国 北京  
IPPUDO 北京 Galleria店  
2019年1月14日 Grand OPEN

# 連結損益計算書

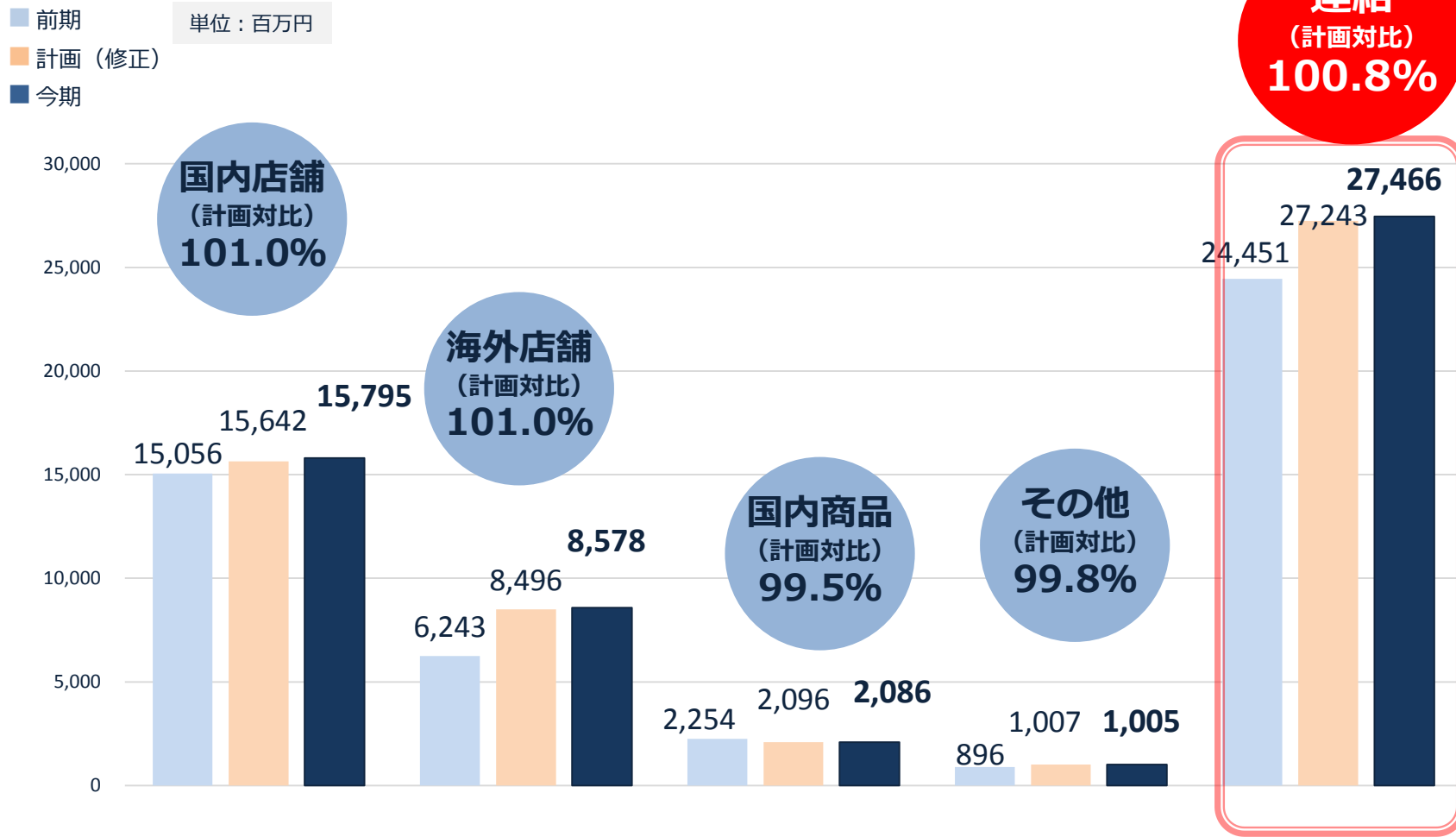


単位：百万円 CHIKARANOMOTO

	2019年3月期 実績	2019年3月期 修正計画	2018年3月期 実績	対計画	対前年
売上高	27,466	27,243	24,451	+0.8%	+12.3%
売上総利益	19,664	—	17,362	—	+13.3%
販売費及び一般管理費	18,706	—	16,456	—	+13.7%
営業利益	957	1,012	905	▲5.4%	+5.8%
経常利益	922	985	872	▲6.4%	+5.8%
税金等調整前当期純利益	837	—	755	—	+10.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	615	668	634	▲7.9%	▲3.0%

売上高、営業利益、経常利益は前年を上回るが  
国内店舗の戦略的移転や閉店の特別損失により純利益が減少

# セグメント売上高



国内・海外・連結はいずれも修正計画通りに着地  
前年対比では12.3%の増収

## ◆ 国内店舗運営事業

- 新規出店はQ4でショート（通期22店舗計画、17店舗開業済み）
- 採算性の精査による出店変更、取りやめ含む
- 売上、収益性が高い既存店舗に対し資金と人的資源を集中投下
- 期初より実施した各種施策の効果が下期から顕著に

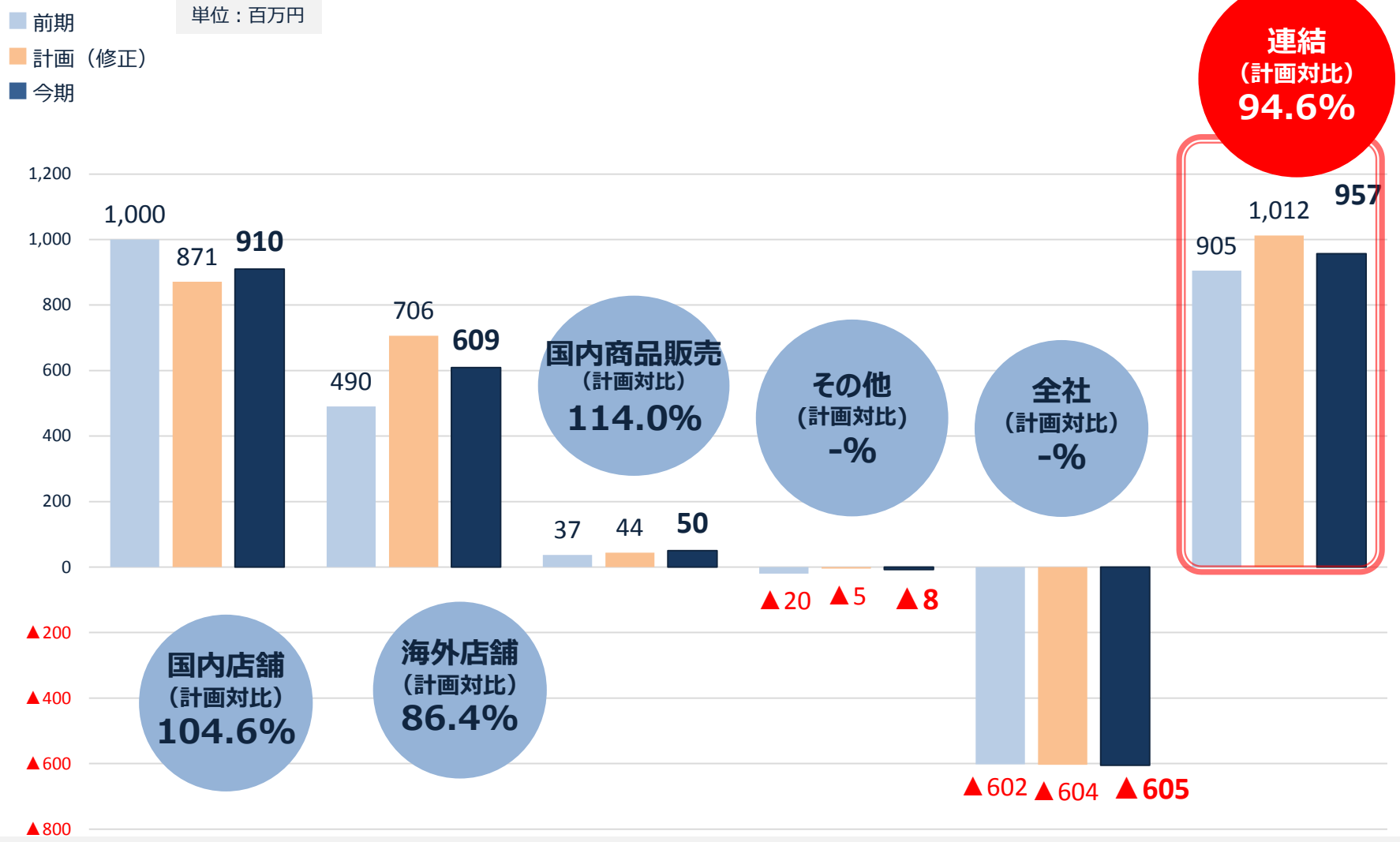
既存店売上高前年対比 4月～9月 平均95.2%

10月～3月 平均98.3%

## ◆ 海外店舗運営事業

- 新規出店は順調に推移（計画通り33店舗出店を達成）
- 既存店売上高は通期100.5%で着地
- ライセンスエリアの出店拡大によるロイヤリティ収入等が増加
- 事業全体で売上高前年対比137%と高い成長

# セグメント利益



**国内店舗は下半期に回復基調、利益計画達成**  
**海外は米国の出店遅延の影響で計画未達ながらも前年対比24%増**



## ◆ 国内店舗運営事業

- 人件費、原材料費、物流費の上昇が利益にマイナスの影響
- スタッフ定着率の向上や、収益性の高い店舗の増席などにより、下期の利益率は回復傾向
- 商物流改革は継続して実行中、コスト削減効果が現れ始める
- セグメント営業利益率5.8%（前期6.6%）

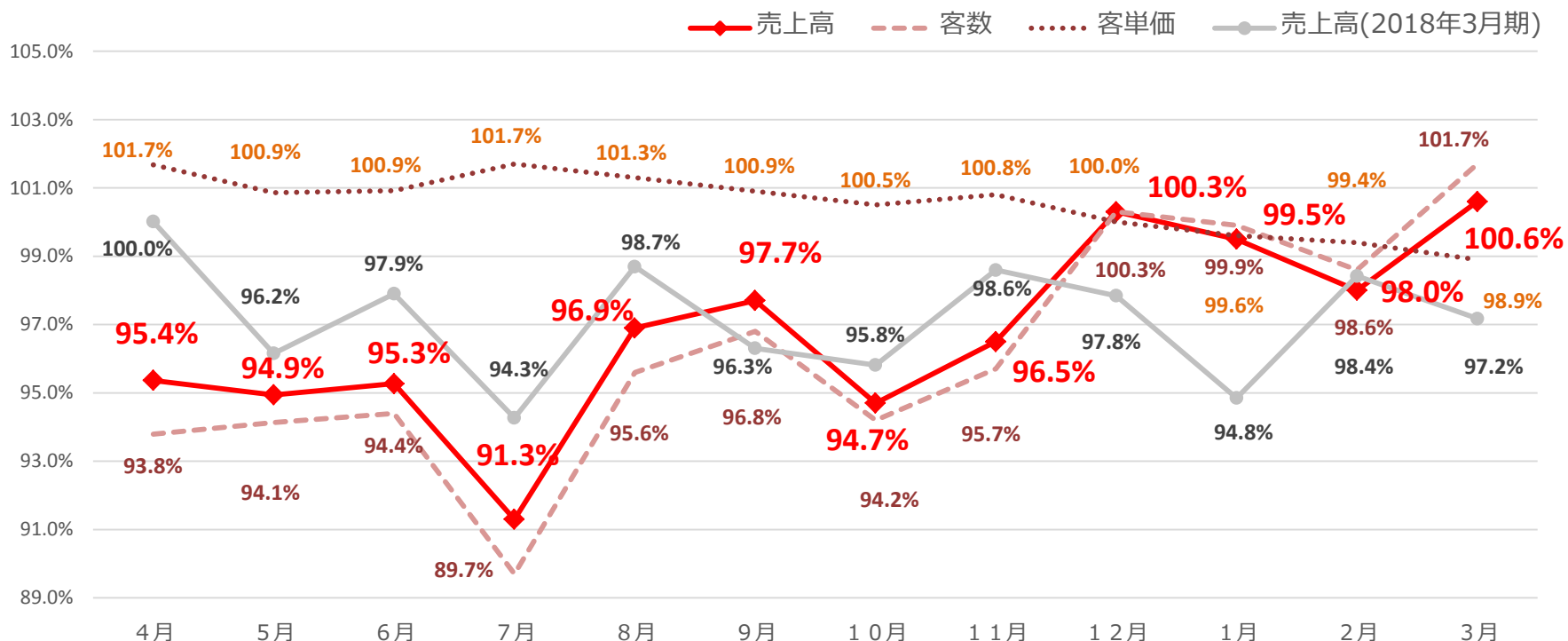
## ◆ 海外店舗運営事業

- 米国西海岸の新規出店遅延による損失（約1億円）を他のエリアの収益性向上によりカバー、前年対比で24%の増益
- 上記によりセグメント営業利益率は前期7.9%から今期7.1%へと若干減少したが利益は1億円強の増加

# 国内既存店対前年比



## 2019年3月期 国内既存店の売上高/客数/客単価の推移



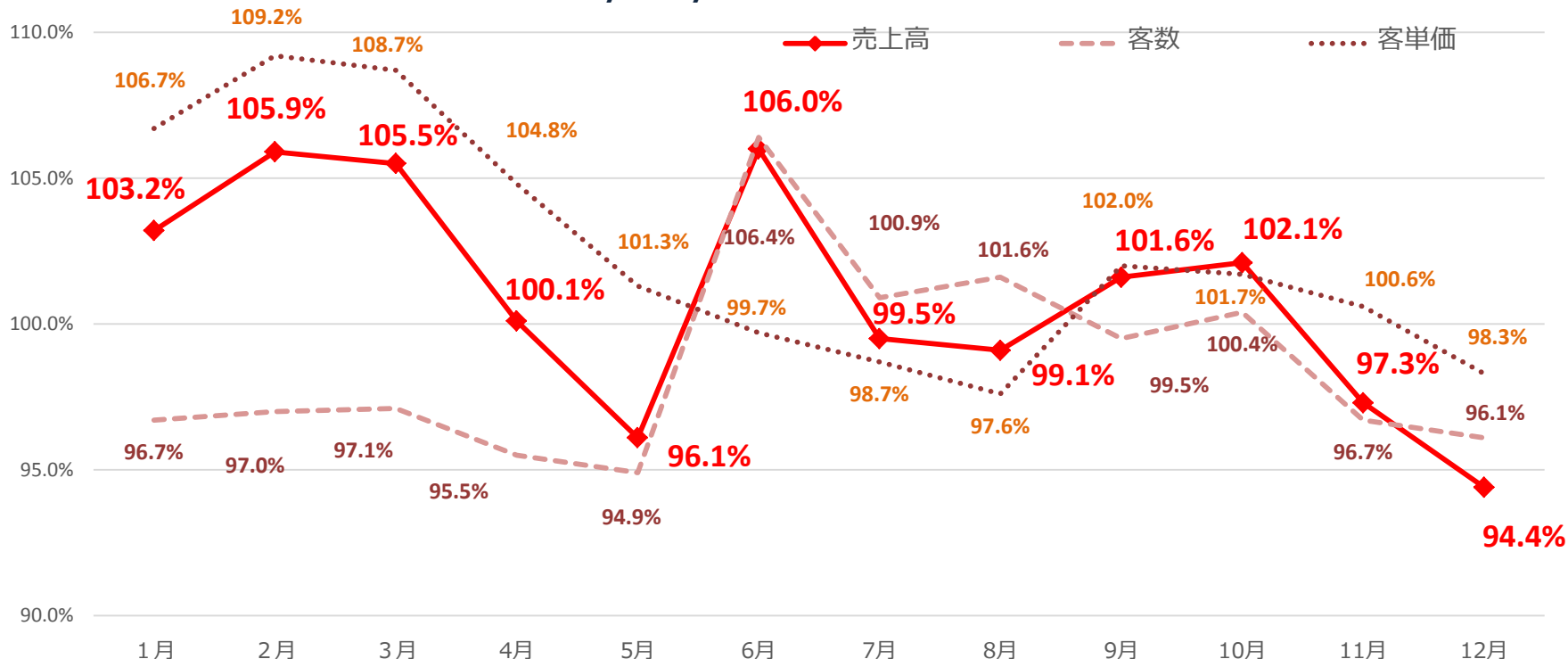
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
売上高	95.4%	94.9%	95.3%	91.3%	96.9%	97.7%	94.7%	96.5%	100.3%	99.5%	98.0%	100.6%	96.8%
客数	93.8%	94.1%	94.4%	89.7%	95.6%	96.8%	94.2%	95.7%	100.3%	99.9%	98.6%	101.7%	96.3%
客単価	101.7%	100.9%	100.9%	101.7%	101.3%	100.9%	100.5%	100.8%	100.0%	99.6%	99.4%	98.9%	100.5%

**売上高、客数共に各種施策が功を奏し7月を底に回復傾向  
第4四半期のみでは客数前年対比100.1%**

# 海外既存店対前年比



□ 2018年12月期 海外既存店の売上高/客数/客単価の推移



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
売上高	103.2%	105.9%	105.5%	100.1%	96.1%	106.0%	99.5%	99.1%	101.6%	102.1%	97.3%	94.4%	100.5%
客数	96.7%	97.0%	97.1%	95.5%	94.9%	106.4%	100.9%	101.6%	99.5%	100.4%	96.7%	96.1%	98.5%
客単価	106.7%	109.2%	108.7%	104.8%	101.3%	99.7%	98.7%	97.6%	102.0%	101.7%	100.6%	98.3%	102.1%

**12月売上高は為替の影響により4.6%マイナスになるも通年では100.5%  
各エリアとも堅調に推移**

# 連結貸借対照表



単位：百万円

	2018年3月末	2019年3月末	GAP
流動資産 (うち現金及び預金)	4,981 (3,064)	5,792 (3,615)	+811 (+550)
有形固定資産	7,016	7,367	+351
無形固定資産	155	336	+180
投資その他の資産	3,147	2,896	▲251
固定資産	10,319	10,600	+280
資産合計	15,300	16,392	+1,092
負債合計	10,580	11,668	+1,087
株主資本	3,642	4,027	+384
その他包括利益累計額	606	295	▲310
非支配株主持分	471	401	▲69
純資産合計	4,720	4,724	+4
負債純資産合計	15,300	16,392	+1,092

## ■ 資産

・ 現預金の増加	+550百万円
・ たな卸資産の増加	+89百万円
・ 有形固定資産の増加	+351百万円
・ のれんの増加	+167百万円
・ 敷金及び保証金の増加	+114百万円
・ 投資有価証券の減少	▲386百万円

## ■ 負債

・ 有利子負債の増加	+19百万円
・ 未払金の増加	+572百万円
・ 資産除去債務の増加	+117百万円
・ 未払法人税等の増加	+184百万円

## ■ 純資産

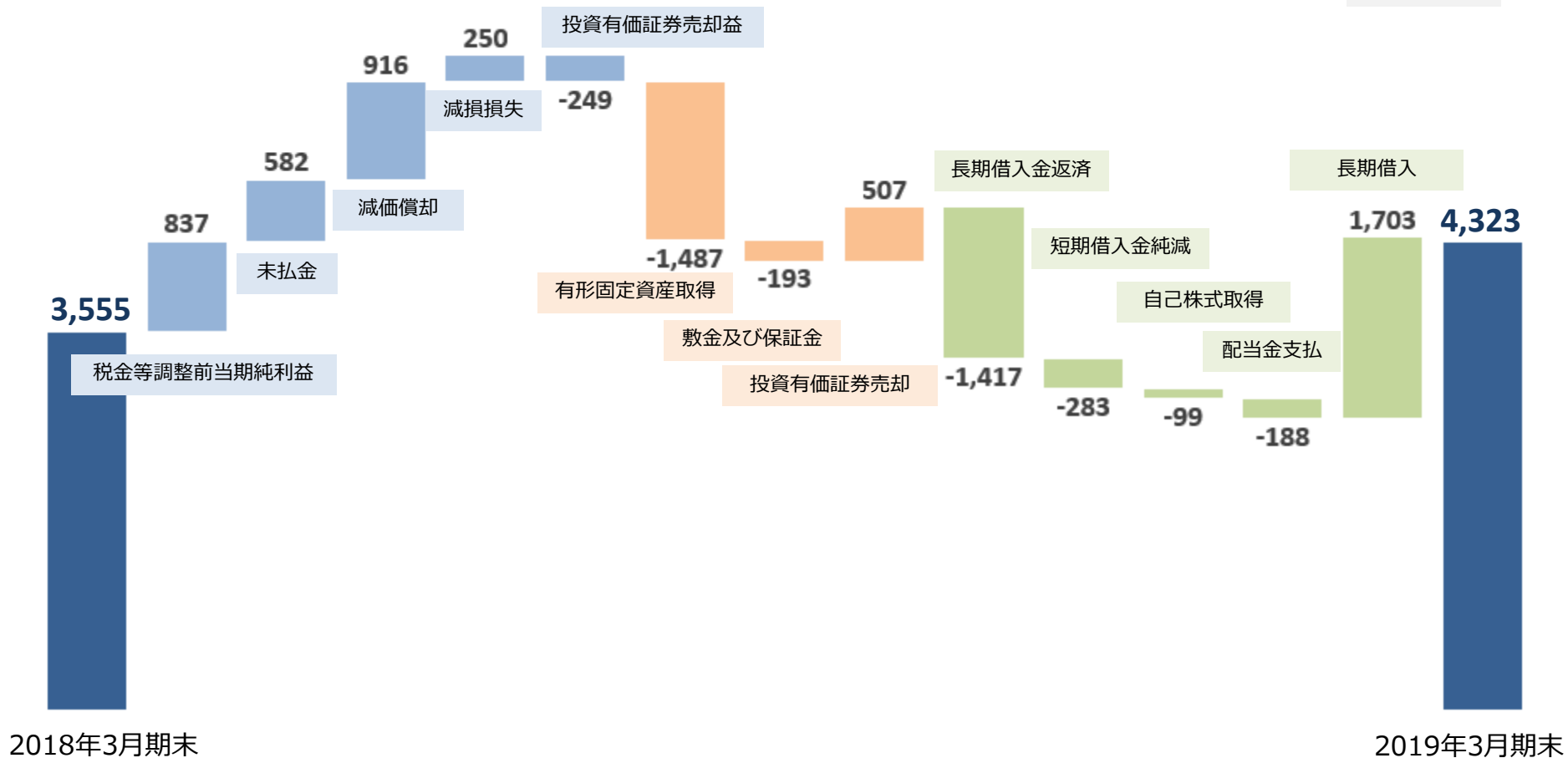
・ 当期純利益の計上	+615百万円
・ 自己株式の取得	▲99百万円
・ その他有価証券評価 差額金の減少	▲174百万円
・ 利益剰余金の減少（配当）	▲187百万円
・ 為替換算調整勘定の減少	▲136百万円

自己資本比率26.4% (2018年3月末27.8%)

# 連結キャッシュ・フロー計算書



単位：百万円



**現金及び現金同等物は767百万円増加  
EBITDAは1,874百万円**

# 出店の状況（出店数/計画数）

## 国内

今期累計	今期年間計画
17	22

## 海外

今期累計	今期年間計画
33	33

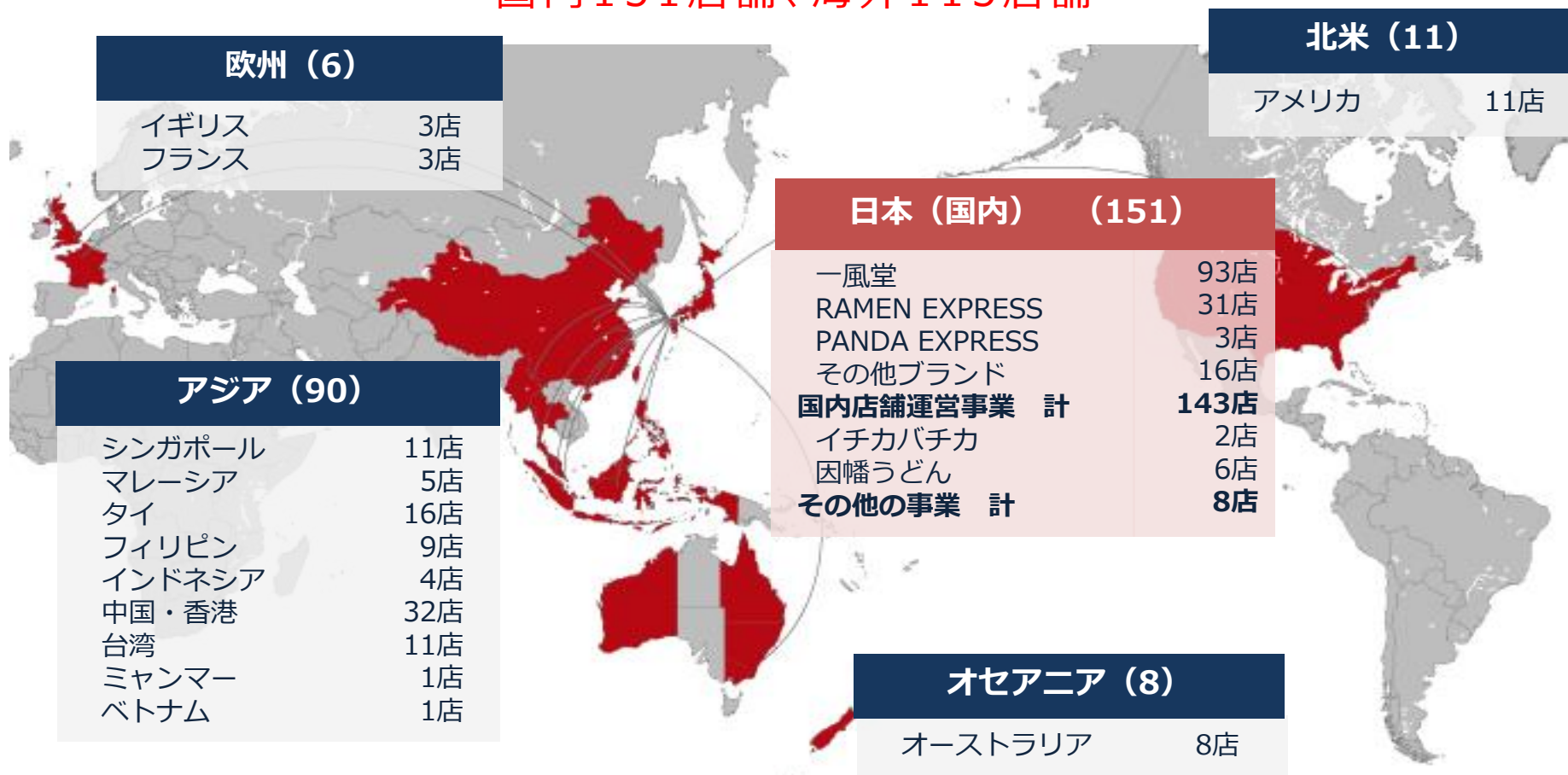
国内出店はQ4にショート（出店変更、取りやめ含む）  
海外出店は直営エリアで遅れが見られるが、ライセンスエリアが計画を上回る出店で計画達成

(2019年3月末現在)

## Global 14ヶ国・地域 Total 266 店舗

(前期末からの増減 +42店舗)

国内151店舗、海外115店舗



# 主な実施事項



1/2PPUDO 渋谷ヒカリエ店  
2019年1月22日 Grand OPEN



# 新店舗オープン

	1月	2月	3月
国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 1/2PPUDO 渋谷ヒカリエ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ PANDA EXPRESS ダイバーシティ東京プラザ</li> </ul>
海外	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ Sunway Pyramid (マレーシア)</li> <li>➢ Breeze南山 (台湾)</li> <li>➢ 杭州Mix City (中国)</li> <li>➢ 北京Galleria (中国)</li> <li>➢ Greenbelt 5 (フィリピン)</li> <li>➢ Breeze中央研究院 (台湾)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 101 The Third Place (タイ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ Ayala 30<sup>th</sup> (フィリピン)</li> <li>➢ Phu My Hung (ベトナム)</li> <li>➢ Central Festival Eastville (タイ)</li> </ul>

# 配当の状況



	中間	期末	年間
基準日	2018年9月30日	2019年3月31日	—
1株当たり 配当金	4円00銭	4円00銭	8円00銭
配当金総額	93百万円	94百万円	188百万円
効力発生日	2018年12月4日	2019年6月5日	—

次期（2020年3月期）の配当予想につきましては、1株当たり普通配当8円00銭（中間配当4円00銭、期末配当4円00銭）を予定しております。

**中間配当として1株4円、期末配当として1株4円、年間配当合計8円  
配当性向 30.5%**

# 10月16日創業祭 振る舞いラーメン

ロンドン



シンガポール



インドネシア



ミャンマー



ニューヨーク



パリ



福岡



サンフランシスコ



パース



マレーシア



台北



一風堂33周年を記念し、国内外13カ国33店舗において  
無料の振る舞いラーメンをご提供  
多くのお客様に感謝の気持ちをお伝えいたしました

# Japan Branding Awards 受賞



## Japan Branding Awards 2018

Interbrand



- 1985 Fukuoka
- 1995 Tokyo
- 2008 New York
- 2009 SINGAPORE
- 2011 HONG KONG
- 2012 TAIWAN
- CHINA(MAINLAND)
- Sydney
- 2013 MALAYSIA
- 2014 THAILAND
- INDONESIA
- PHILIPPINES
- London
- 2016 Paris
- 2017 MYANMAR
- San Francisco
- 2018 Perth
- Melbourne



## 一風堂、日本初ブランディング活動を評価するアワード「Japan Branding Award 2018」にて「Rising Stars賞」受賞

THE KEY TO ENJOYING BAREN IS THE SOUND.



(株) インターブランドジャパンが主催するJapan Branding Awards 2018において特徴的な活動で成果を出したブランドとして、Rising Star賞を受賞

# グローバルインターンシップ



産学連携の一環としてシンガポールにて実店舗でインターンシップ



産学連携のグローバルインターンシップを実施

経済産業省などが後援している「学生が選ぶ インターンシップアワード2019」優秀賞を受賞

# 「ニコニコ超会議」初出店（2019年4月）



限定ラーメンの販売や他業種とのコラボレーションを実施  
新しい顧客層の取り込みを強化

# 2020年3月期 (今期) 計画



PANDA EXPRESS  
ダイバーシティ東京プラザ店  
2019年3月12日 Grand OPEN

# 2020年3月期業績予想（連結損益計算書）



単位：百万円

	2019年3月期 実績	2020年3月期 計画	対前期	
			増加額	増加率
売上高	27,466	30,010	+2,544	+9.3%
営業利益	957	1,150	+193	+20.1%
経常利益	922	1,072	+150	+16.2%
当期純利益	615	700	+85	+13.9%

売上高9.3%成長、営業利益20.1%成長の  
増収増益を計画

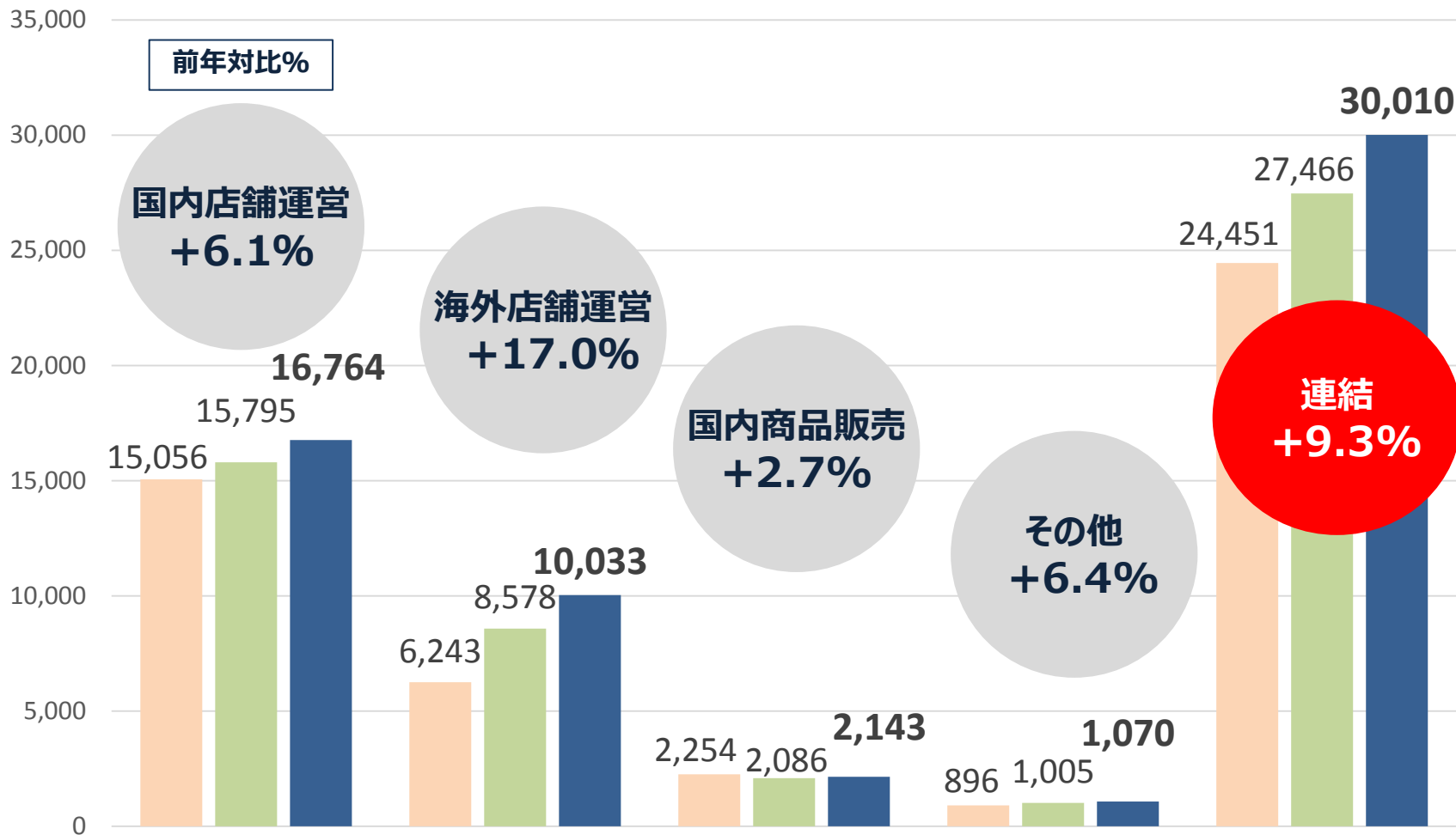


# 2020年3月期業績予想（売上高）



■ 2018年3月期実績 ■ 2019年3月期実績 ■ 2020年3月期予想

単位：百万円



国内は既存店の業績回復への集中により低成長  
 海外は引き続き直営、ライセンスエリアともに出店拡大  
 連結で10%弱の増収を計画

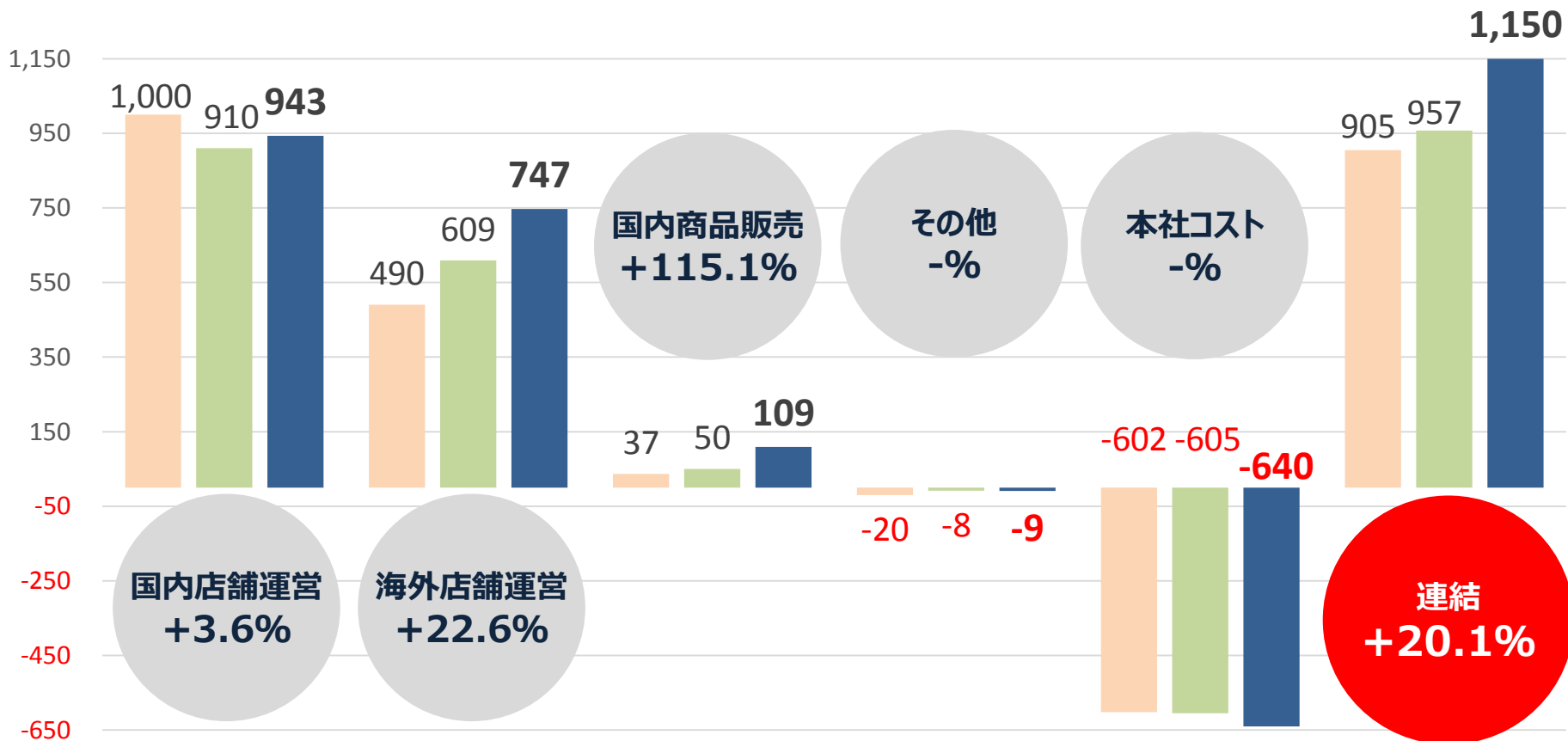
# 2020年3月期業績予想（セグメント利益）



■ 2018年3月期実績 ■ 2019年3月期実績 ■ 2020年3月期予想

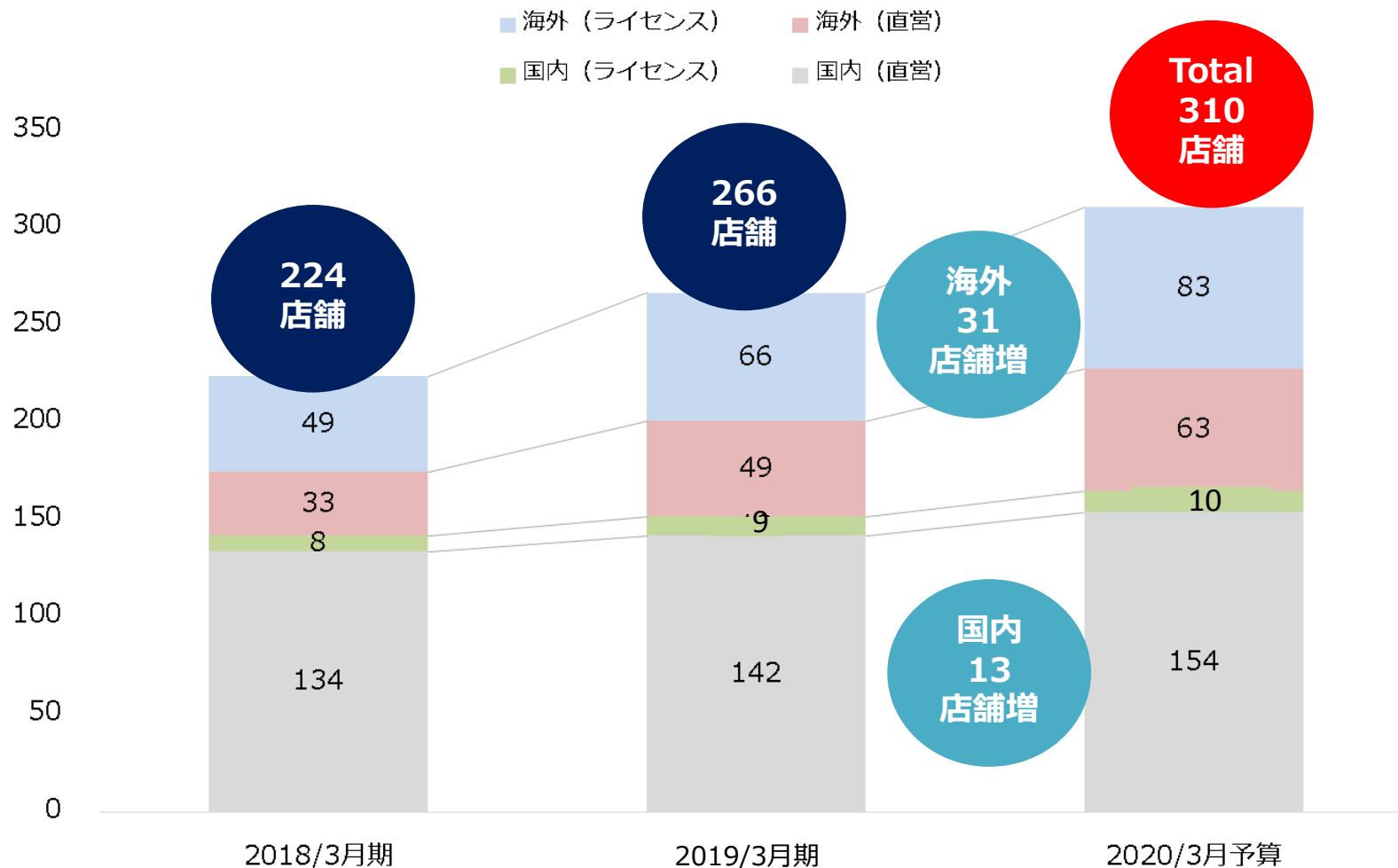
単位：百万円

前年対比%



国内店舗運営事業では引き続き既存店収益性改善に取り組む  
 海外では既存エリアでの新規出店に努め、西海岸での遅れを取り戻す  
 全体では20%強の利益成長

# 2020年3月期 全社店舗数推移



合計44店舗の増加（国内13店舗、海外31店舗） 全310店舗体制へ

# 付属資料



タイ バンコク  
IPPUDO THAILAND Central Festival Eastville店  
2019年3月29日 Grand OPEN

## ■ 企業理念 ■

変わらないために、  
変わり続ける



## ■ 創業の精神 ■

私たちは、常に新しい価値を創造していく集団でありたい。  
創造した価値を、人類最高のコミュニケーションの源である  
「笑顔」と「ありがとう」とともに世界中に伝えていく。

## 株式会社 力の源ホールディングス

【証券コード:3561】

- 所在地 福岡県福岡市中央区大名一丁目14番45号 QizTENJIN 801B号
- 設立 1986年（昭和61年）10月30日
- 資本金 12億 6,677万円（発行済株式数：23,693,500株）
- 決算期 3月
- 従業員数 71名（連結623名） ※臨時従業員除く

### 役員構成

代表取締役会長兼社長

河原 成美

Shigemi Kawahara

常務取締役CFO

粕谷 進一

Shinichi Kasuya

取締役

原田 善治

Yoshiharu Harada

取締役

西浜 英彦

Hidehiko Nishihama

取締役（社外）

独立役員

金子 和斗志

Katsushi Kaneko

取締役（監査等委員）

鈴木 康義

Yasuyoshi Suzuki

取締役（監査等委員／社外）

独立役員

辻 哲哉

Tetsuya Tsuji

取締役（監査等委員／社外）

独立役員

田鍋 晋二

Shinji Tanabe

（2019年3月末現在）

## 原点の一杯 白丸元味



創業当時から今に引き継ぐ一風堂のとんこつラーメンの本流であり、原点の味。18時間の調理と、丸1日の熟成を経て、とんこつの旨味を極限まで抽出した豊かで香り高いシルキーなスープに、博多らしい細麺、丸刃麺線26番がマッチ。

## 革新の一杯 赤丸新味



自家製の香味油と辛みそを加えることで、一杯のラーメンの中でいくつもの味の奥行きと調和を楽しめる。白丸が正統派のとんこつラーメンならば、赤丸新味は豚骨ラーメンの可能性を広げた“革新派”。

## 刺激の一杯 一風堂から麺



博多絹ごしとんこつをベースに、豆板醬や甜麵醬などを独自に配合した肉味噌を大胆にトッピング。山椒などのスパイスを効かせた自家製ラー油が全体をピリリとまとめあげ、中太のストレート麺がうま味と辛味を余すところなくすくい上げる。

# グループ業績の推移（年次サマリー）

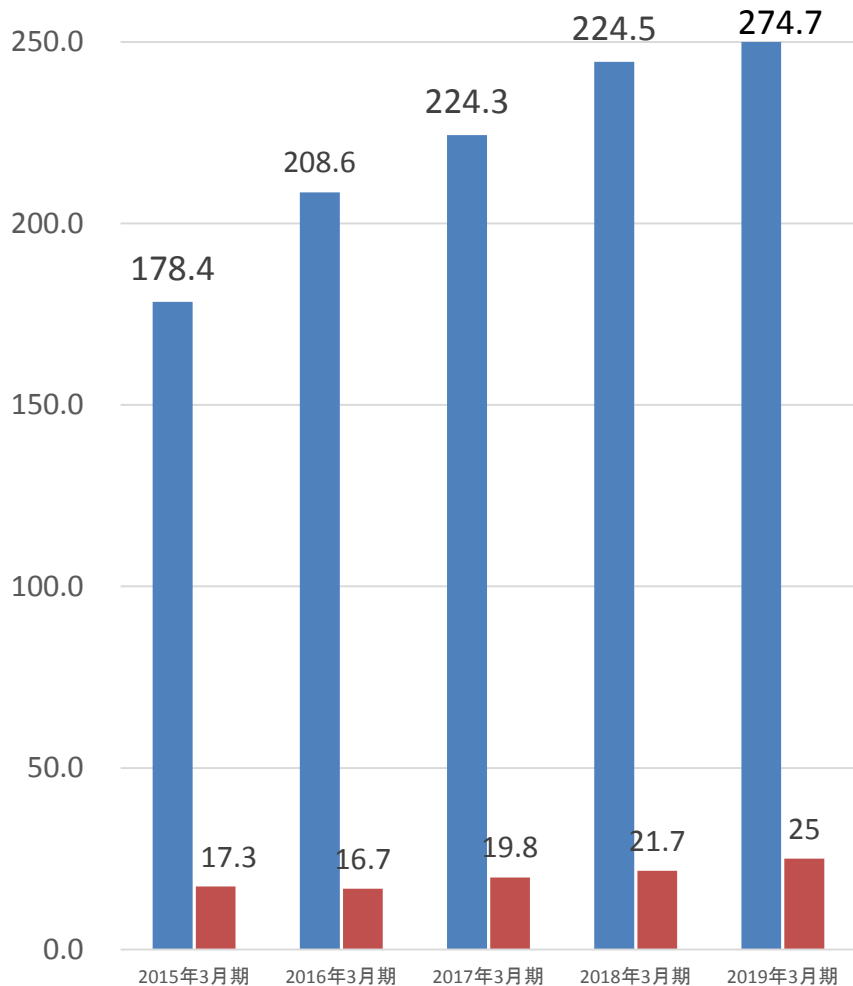


## 連結売上高の推移（単位：億円）

2019年3月期  
連結売上高

**274.7**  
億円

■ 連結  
■ 単体

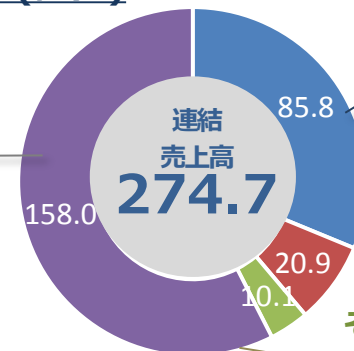


## 売上構成比（セグメント）

2019年3月期（億円）

国内店舗  
**57.5%**

海外店舗  
**31.2%**

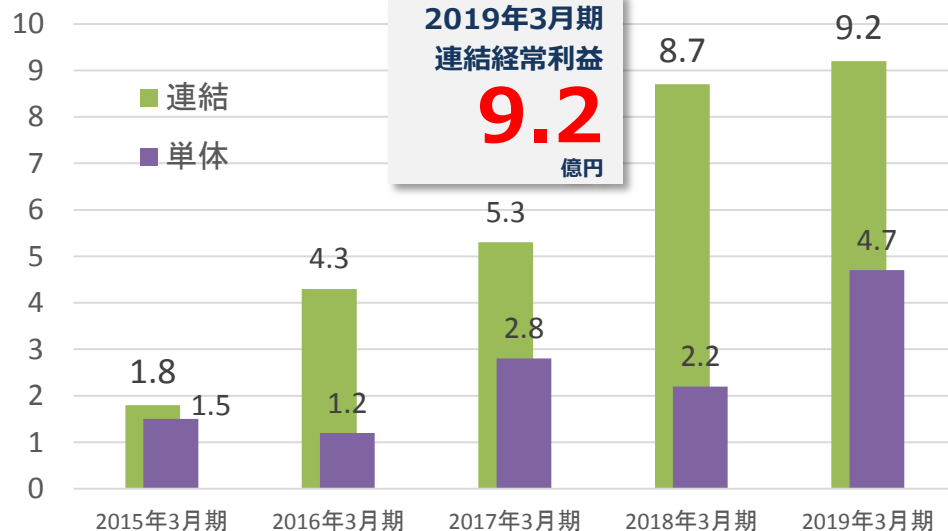


## 経常利益の推移（単位：億円）

2019年3月期  
連結経常利益

**9.2**  
億円

■ 連結  
■ 単体





# 2025年に向けて



## 2025年

国内・海外 **600**店舗の実現  
グローバル**74億人**がターゲット

2018.11 海外100店舗を達成

2018.3

東京証券取引所市場第一部に変更

2017.3 東京証券取引所マザーズに株式を上場

2016.2 フランス パリに初出店

2015.10 創業30周年 記念イベント実施

2014.10 イギリス ロンドンに初出店（欧州初進出）

2009.5 シンガポールに、アジア1号店をオープン

2008.3 アメリカ・NYに、海外1号店をオープン

1997.1 テレビ東京「TVチャンピオン」にてラーメン職人選手権優勝。3連覇

1995.4 東京 第1号店「一風堂 恵比寿店」をオープン

1994.3 横浜市の「新横浜ラーメン博物館」に出店。関東初進出。

1985.10.16 **創業：福岡市中央区大名に「博多 一風堂」を1号店をオープン**

1979.11 福岡市博多区に レストランバー「アフターザレイン」をオープン

IPPUDO



一風堂

本資料は、株式会社力の源ホールディングス（以下「当社」）の企業情報の提供のために作成されたものであり、日本における当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料は事前の通知なく変更されることがあります。本資料またはその内容については、当社の事前の書面による同意がない限り、いかなる目的においても第三者に開示されまたは第三者により利用されることはできません。

本資料に記載される業界、市場動向、または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

また本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社グループの経営成績、財務状態、その他結果は、経済情勢、外食産業の市場動向、消費者の嗜好の変化、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

